

犬のアトピー 喫煙も一因



アトピー性皮膚炎のため、おなかに赤く発疹が出た犬＝荒井延明さん提供

ペットの犬がアトピー性皮膚炎を発症するリスクは、喫煙など飼い主の生活習慣と関連していることが、明治大の瀬瀬雄三教授（応用獣医学）らの研究でわかった。毛が短い犬は発症年齢が早いという。海外の研究では犬の約10%にアトピーがあるとされるが、日本の詳しい実態はわかっていなかった。

東京都内で開かれている日本アレルギー学会秋季学術大会で30日、発表する。

2006～07年に、東京都内の

明大研究 飼い主の習慣と関連

検査会社にアレルギーの原因特定検査の依頼があった約1万1千件のうち、国際的な診断基準でアトピーと診断された犬約2300匹を解析した。

その結果、飼い主が喫煙者の場合、皮膚のかゆみで毛をひっかくため脱毛のリスクが高かった。飼い主と同じ食事を食べている犬は乾燥肌が多かった。共同研究した獣医師の荒井延明さんは「たばこは人間でもアトピーのリスク因子。人間と同じ食べ物だと免疫に関係する亜鉛不足が起りやすい」と話す。

アトピー性皮膚炎の平均発症年齢は、ヒトの20歳前後にあたる2・56歳。犬種別ではフレンチブルドッグ、ボストンテリアなど毛が短く直毛の犬の発症が早く、最も遅いのは雑種だった。（岡崎明子）